# Ⅳ章　全体として

ここまで、「学習」「家庭での過ごし方」「行動」について述べてきたが、この章では、夏休みを振り返り、生徒たちがこの夏休みをどう分析しているのか、どのような夏休みだと思ったかを探る。
まず、夏休み全般を振り返り、夏休みの感想と、何が一番楽しかったかをたずねた。そして、夏休みへの生徒たちの意気込みを知るため、夏休み前にどのような計画を立てたか、その達成度にまで及び調べてみた。最後にこれから始まる２学期には何をがんばりたいかその意欲をたずねてみた。

## (1)　夏休みを振り返って

**１夏休みの充実度**

夏休みを振り返ると、それは全般的にどんな夏休みだったのだろうか。

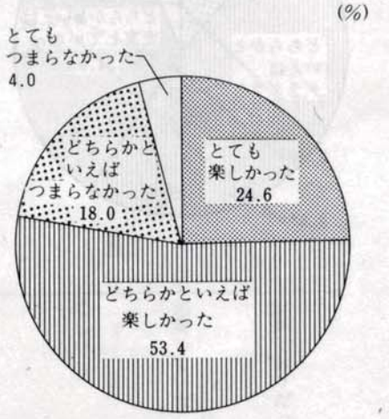
①「楽しかった」か、「つまらなかった」か。
②「忙しかった」か、「ひまだった」か。
③「充実していた」か、「ダラダラしていた」か。
④「計画どおりだった」か、「計画どおりにいかなかった」か。

この４項目について、生徒自身に分析してもらった。

４項目について各々円グラフにしたのが、図Ⅳ−１～４である。

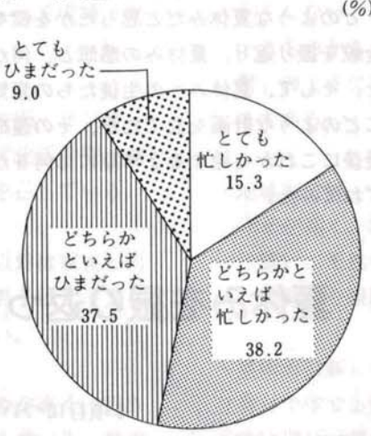
「とても」と「どちらかといえば」をプラスしてみると、「楽しかった」が78.0%、「忙しかった」が53.5%、「充実していた」が40.5%、「計画どおりだった」が22.7%となる。８割の生徒が楽しい夏休みだったとしているが、「忙しかった」は５割以上、「充実していた」は半数以下で、「計画どおりだった」は４分の１にも満たない。計画どおりにはいかなかっ

〔図Ⅳ-1〕夏休みを振り返って（楽しさ）

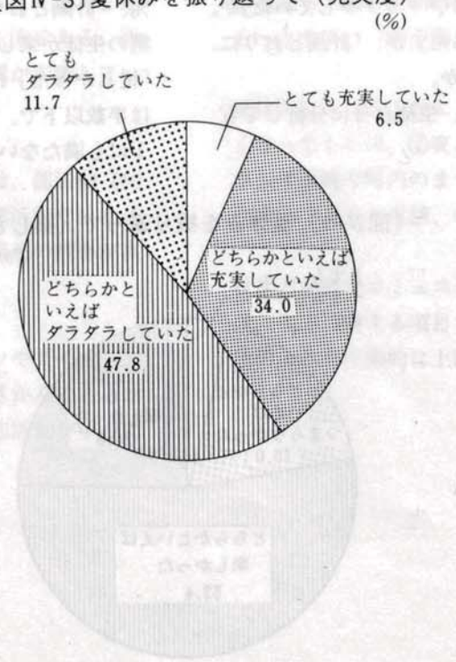


たが、意外と忙しく、充実感はあまり得られなかったが、とにかく楽しい夏休みだったといえる。

〔図Ⅳ-2〕夏休みを振り返って（忙しさ）




〔図Ⅳ-3〕夏休みを振り返って（充実度）

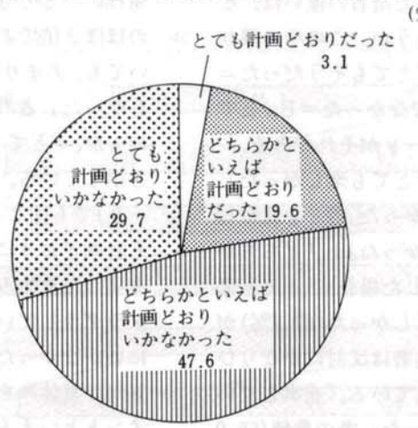



性別および地域別での差は、あまりみられない。

成績別に、「とても」+「どちらかといえば」の数値をグラフにしたのが、図Ⅳ-5である。すべてにおいて、上位者・中位者・下位者の順で、上位者の数値が高い。「充実していた」、「計画どおりだった」での差は顕著である。上位者は、この夏休みは、楽しくて多忙で、充実しており、計画どおりいったと答える者が多い。

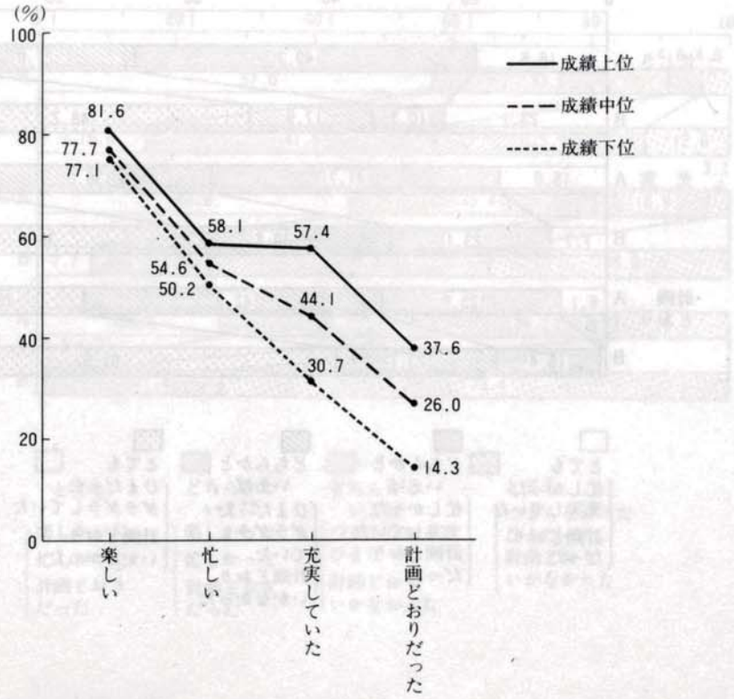
「とても楽しかった」と答えた者と、「とて

〔図Ⅳ-4〕夏休みを振り返って（計画どおり）




〔図Ⅳ-5〕夏休みの充実度（成績別）

（とても＋どちらかといえばの数値）

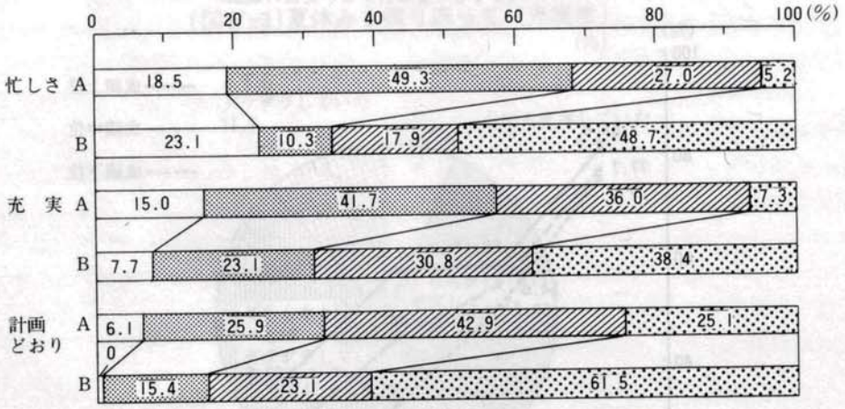


もつまらなかった」と答えた者の違いは、どのような点にあるのだろうか。この項の残りの3項目において、各々「とてもそうだった＝A」と、「ぜんぜんそうでなかった＝B」とで比較してみた。図Ⅳ-6～9がそれである。

まず、図Ⅳ-6から、「とても楽しかった」者と、「とてもつまらなかった」者とを比較してみると、「とても忙しかった」＋「どちらかといえば忙しかった」とした場合、「とても楽しかった」者はかなり忙しかった(67.7%)が、「とてもつまらなかった」者は反対にかなりひまだった(66.6%)と答えている。「充実していた」も、「とても楽しかった」者の数値(56.9%)は、「とてもつまらなかった」者(30.8%)のほぼ2倍である。「計画どおりだった」においても、あまり数値は高くないが、「とても楽しかった」者の「計画どおりだった」の数値の方が、「とてもひまだった」者より高い数値を示している。残りの3つのグラフ(図Ⅳ-7～9)でも同じことがいえるが、特に、「とても計画どおりにいった」は、93.5%がかなり充実した夏休みだったと答えており、「とてもダラダラしていた」は、94.9%が計画どおりにいかなかったと答えている。「計画性」の有無が、夏休みを充実したものとする大きなポイントといえる。

〔図Ⅳ-6〕夏休みの充実度比較（楽しさ）

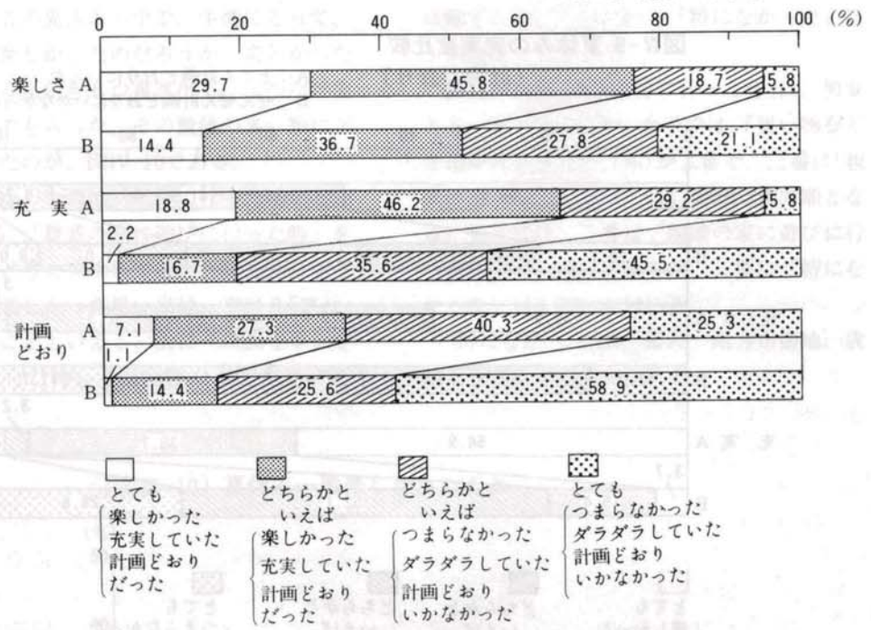
A：とても楽しかった
B：とてもつまらなかった





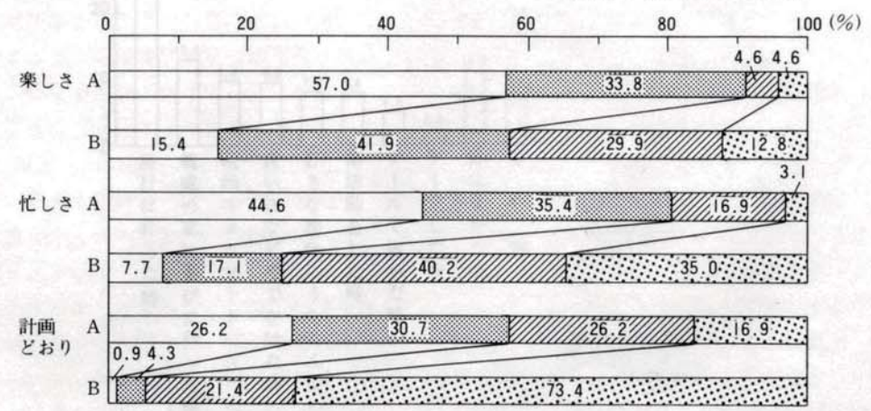

〔図Ⅳ-7〕夏休みの充実度比較（忙しさ）

A：とても忙しかった
B：とてもヒマだった



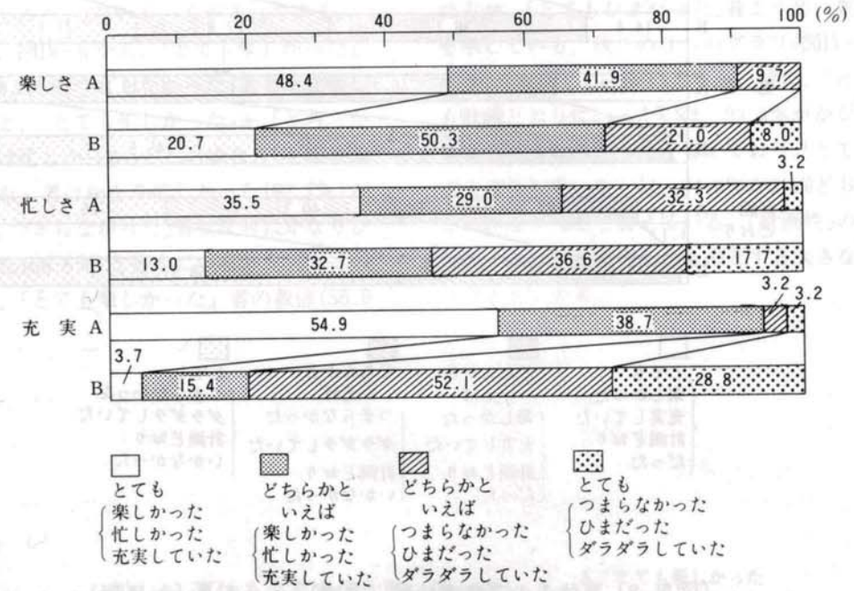

〔図Ⅳ-8〕夏休みの充実度比較（充実）

A：とても充実していた
B：とてもダラダラしていた



図Ⅳ-9 夏休みの充実度比較
（計画どおり）

A：とても計画どおりにいった
B：ぜんぜん計画どおりにいかなかった






**2 夏休み楽しかったこと**

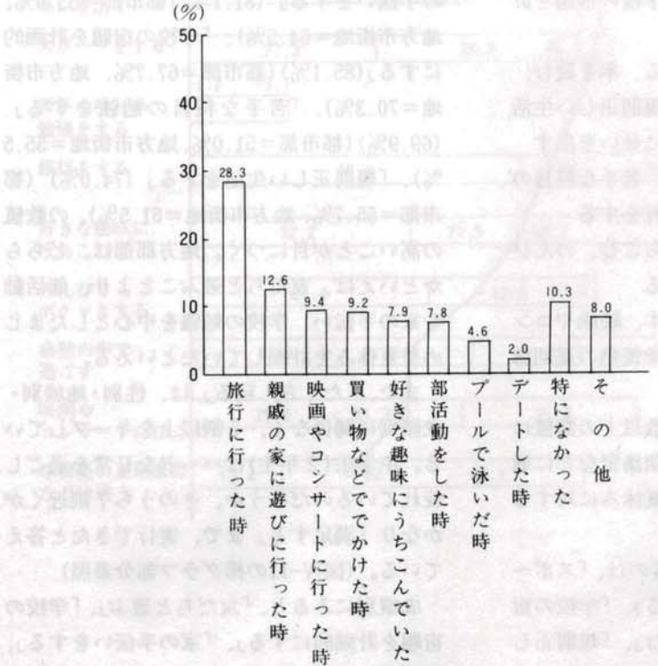
では、この夏休みの中で、生徒にとって、何が一番楽しかったのだろうか。楽しかったと思われる事項を８つ書き出し、１つだけ生徒に選んでもらった。その数値の多い順にグラフにしたのが、図Ⅳ-10である。

一番多かったのは、「旅行に行った時」(28.3%)である。「親戚の家に遊びに行った時」を、「小旅行」と考えプラスすると、40.9%に達する。一番楽しかった思い出は、やはり「旅行」に関することといえる。次に「映画やコンサートに行った時」、「買い物などで出かけた時」、「好きな趣味にうちこんでいた時」、「部活動をした時」、と続く。「特になかった」は１割程度である。

性別にみると、「旅行に行った時」は、男女とも一番で同じだが、女子では、「買い物などで出かけた時」(14.7%)が二番で、三番に「親戚の家に遊びに行った時」(10.7%)の順となる。男子では、二番は「親戚の家に遊びに行った時」(14.4%)であるが、三番に「特になかった」(13.6%)がはいる。

「特になかった」は、また、地方市街地、成績下位者に多い傾向がある。

〔図Ⅳ-10〕夏休み一番楽しかったこと



## (2) 夏休みの過ごし方

### 1 夏休みの計画

この項では、「夏休みの過ごし方」と題し、夏休みの始まる前にやろうと思ったことと、それがどれくらい実行できたかを、探ってみたい。

「学習塾の夏期講習などに通う」など、15項目について、夏休みの始まる前にやろうと思っていたかどうかを、たずねてみた。数値の多い順にグラフに表したのが、図IV-11の折れ線である。各々順にリストアップすると、次のようになる。

7割以上…友だちと遊ぶ、学校の宿題を計画的にする

6 〃 …家の手伝いをする、本を読む、たくさん寝る、規則正しい生活をする、部活動にせいを出す

5 〃 …スポーツをする、苦手な科目の勉強をする、旅行をする

4 〃 …好きな趣味にうちこむ、のんびり、ボケッとする

4割以下…自然の中で過ごす、映画やコンサートに行く、学習塾の夏期講習などに通う

15項目のうち、10項目が半数以上の数値になり、一番低い「学習塾の夏期講習などに通う」も2割強の数値を示す。夏休みに対する中学生の意気込みを感じる。

性別にみると、差の顕著なものは、「スポーツをする」、「家の手伝いをする」、「学校の宿題を計画的にする」、「本を読む」、「規則正しい生活をする」、「映画やコンサートに行く」、「苦手な科目の勉強をする」であり、「スポーツをする」以外はすべて、女子のほうの数値が高い。男子よりも女子のほうが、いろいろなことを、盛りだくさん計画する傾向がある。

地域別にみると、都市部では、「旅行をする」(66.0%)(地方市街地=44.2%、地方郡部=37.9%)と「学習塾の夏期講習などに通う」(42.8%)(地方市街地=10.2%、地方郡部=4.1%)の数値の高さが目立つ。地方郡部では、他の地域に比べ、「友だちと遊ぶ」(56.9%)(都市部=81.1%、地方市街地=73.6%)の数値が低いことと、「部活動にせいを出す」(85.2%)(都市部=44.5%、地方市街地=68.1%)、「家の手伝いをする」(81.1%)(都市部=63.0%、地方市街地=64.5%)、「学校の宿題を計画的にする」(85.1%)(都市部=67.7%、地方市街地=70.3%)、「苦手な科目の勉強をする」(69.9%)(都市部=51.0%、地方市街地=55.5%)、「規則正しい生活をする」(74.0%)(都市部=55.7%、地方市街地=61.5%)、の数値の高いことが目につく。地方郡部は、どちらかといえば、友だちと遊ぶことより、部活動や家の手伝い、学校の勉強を中心としたまじめ型夏休みを計画していたといえる。

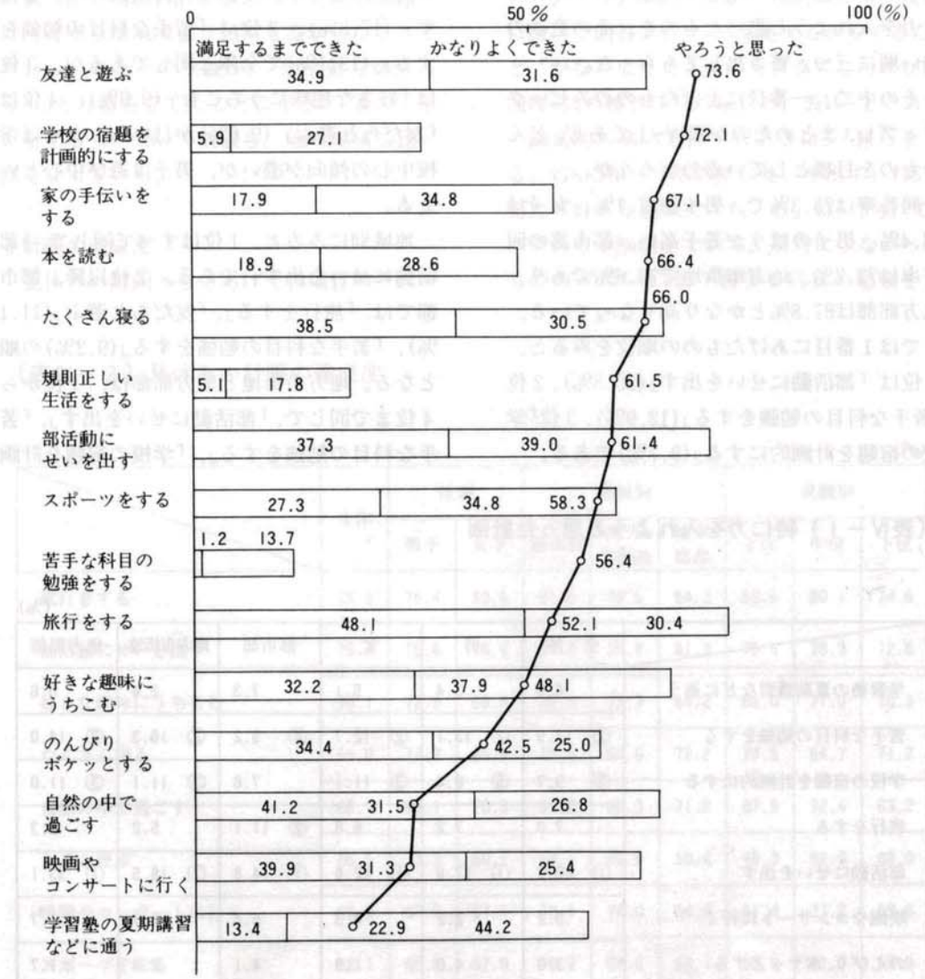
また、「たくさん寝る」は、性別・地域別・成績別に関係なく、6割以上をキープしている。中学生(2年生)はハードな日常を過ごし、疲れているのだろうか。そのうち7割近くが、かなり「満足する」まで、実行できたと答えている。(図IV-11の棒グラフ部分参照)

成績別にみると、「友だちと遊ぶ」、「学校の宿題を計画的にする」、「家の手伝いをする」、「部活動にせいを出す」を除いたすべてで、上位者の数値が高くなっている。

以上から女子・地方郡部・成績上位者で、数多くの計画を立てる傾向にある。



〔図IV-11〕夏休みの目標と達成度



### 2 夏休みの目標

「1 夏休みの計画」であげた、15項目の計画のうち、計画しようと思ったものの中で、特に力を入れようと思ったものを、その意欲の強い順に三つ、書き出してもらった。

その中で、一番目に上げたもののみピックアップし、まとめたのが表Ⅳ−1である。どんなものを目標としているのだろうか。

回答率は75.3%で、男子が77.1%、女子は73.4%、男子のほうが若干高い。都市部の回答率は72.2%、地方市街地で72.6%であり、地方郡部は87.8%とかなり高くなっている。

では1番目にあげたものの順位をみると、1位は「部活動にせいを出す」(20.3%)、2位「苦手な科目の勉強をする」(12.9%)、3位「学校の宿題を計画的にする」(9.7%)である。

性別にみると、女子は、全体の傾向と同じである。男子は、1位は「部活動にせいを出す」(17.8%)、2位は「苦手な科目の勉強をする」(13.1%)で全体と同じであるが、3位は「好きな趣味にうちこむ」(9.9%)、4位は「友だちと遊ぶ」(9.6%)がはいる。女子は学校中心の傾向が濃いが、男子は遊び中心といえる。

地域別にみると、1位はすべて同じで、「部活動にせいを出す」である。2位以降、都市部では、「旅行をする」、「友だちと遊ぶ」(11.1%)、「苦手な科目の勉強をする」(9.2%)の順となる。地方市街地と地方郡部は、1位から4位まで同じで、「部活動にせいを出す」、「苦手な科目の勉強をする」、「学校の宿題を計画的にする」、「好きな趣味にうちこむ」の順であるが、「部活動にせいを出す」の地方郡部の数値の高さ(33.1%)が目につく。地方郡部では回答率も他地域より15%も高かったことと合わせ、かなりの生徒が、「部活動を頑張ろう！」と目標を立てたことになる。「家の手伝いをする」(7.0%)の数値も、他の地域に比べ高くなっている。

〔表Ⅳ－1〕特に力を入れようと思った計画

(%)

| | 全体 | 男 | 女 | 都市部 | 地方市街地 | 地方郡部 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習塾の夏期講習などに通う | 4.0 | 3.4 | 5.1 | 7.3 | 2.4 | 0.6 |
| 苦手な科目の勉強をする | ② 12.9 | ② 13.1 | ② 12.7 | ④ 9.2 | ② 16.3 | ② 14.0 |
| 学校の宿題を計画的にする | ③ 9.7 | ⑤ 8.4 | ③ 11.1 | 7.6 | ③ 11.1 | ③ 11.0 |
| 旅行をする | 7.0 | 7.2 | 6.8 | ② 11.1 | 5.2 | 2.3 |
| 部活動にせいを出す | ① 20.3 | ① 17.8 | ① 22.4 | ① 14.8 | ① 18.5 | ① 33.1 |
| 映画やコンサートに行く | 3.2 | 2.2 | 4.3 | 5.4 | 1.7 | 1.7 |
| のんびり、ボケッとする | 3.0 | 4.0 | 1.9 | 4.1 | 2.4 | 1.7 |
| 本を読む | 5.7 | 4.7 | 6.8 | 6.4 | 5.9 | 4.1 |
| 好きな趣味にうちこむ | ④ 8.5 | ③ 9.9 | 7.0 | 6.4 | ④ 10.7 | ④ 8.7 |
| 自然の中で過ごす | 1.2 | 1.2 | 1.1 | 1.6 | 0.7 | 1.2 |
| スポーツをする | 5.0 | 7.9 | 1.9 | 6.1 | 5.2 | 2.9 |
| 友だちと遊ぶ | ④ 8.5 | ④ 9.6 | 7.3 | ② 11.1 | 8.7 | 3.5 |
| 家の手伝いをする | 3.7 | 2.2 | 5.4 | 3.5 | 2.1 | 7.0 |
| 規則正しい生活をする | 3.6 | 4.0 | 3.2 | 2.2 | 4.8 | 4.1 |
| たくさん寝る | 3.7 | 4.4 | 3.0 | 3.2 | 4.2 | 4.1 |



### 3 計画の達成度

夏休みの計画としてあげた15項目のそれぞれに関して、夏休みが終わった後の満足度をたずねた。具体的には、「満足するまでできた」から、「ぜんぜんできなかった」までの5段階に分けて回答させた。「満足するまでできた」と「かなりよくできた」をプラスしたのが、図Ⅳ−11の棒グラフの部分と、表Ⅳ−2である。

満足度の高い上位ベスト3は、「旅行をする」(78.5%)、「部活動にせいを出す」(76.3%)、「好きな趣味にうちこむ」(70.1%)で、いずれも7割以上である。反対に少なかったもののベスト3は、「苦手な科目の勉強をす

〔表Ⅳ－2〕夏休みの計画の達成度

(%)

| | 全体 | 性別 | | 地域別 | | | 成績別 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男子 | 女子 | 都市部 | 地方市街地 | 地方郡部 | 上位 | 中位 | 下位 |
| 旅行をする | 78.5 | 76.4 | 80.6 | 81.6 | 79.5 | 64.3 | 82.6 | 80.1 | 74.6 |
| 部活動にせいを出す | 76.3 | 76.6 | 76.0 | 67.2 | 79.8 | 81.3 | 75.5 | 79.3 | 72.8 |
| 好きな趣味にうちこむ | 70.1 | 72.9 | 66.8 | 70.5 | 73.3 | 64.2 | 68.0 | 71.0 | 70.3 |
| たくさん寝る | 69.0 | 72.2 | 65.5 | 68.6 | 64.6 | 72.2 | 74.5 | 64.7 | 71.2 |
| 自然の中で過ごす | 68.0 | 66.1 | 70.5 | 67.2 | 66.3 | 71.2 | 67.9 | 72.4 | 63.2 |
| 友達と遊ぶ | 66.5 | 72.3 | 60.1 | 69.1 | 69.6 | 50.4 | 70.3 | 62.9 | 68.0 |
| 映画やコンサートに行く | 65.3 | 62.6 | 67.5 | 66.1 | 70.0 | 54.0 | 61.4 | 71.2 | 59.6 |
| スポーツをする | 62.1 | 65.2 | 57.9 | 56.2 | 68.6 | 63.1 | 65.9 | 61.7 | 59.9 |
| のんびり、ボケッとする | 59.4 | 72.4 | 56.7 | 62.2 | 60.8 | 51.7 | 65.6 | 60.5 | 55.8 |
| 学習塾の夏期講習などに通う | 57.6 | 57.1 | 58.1 | 57.1 | 59.0 | 62.5 | 72.1 | 54.5 | 53.5 |
| 家の手伝いをする | 52.7 | 44.0 | 60.1 | 54.5 | 48.8 | 56.0 | 52.1 | 52.0 | 54.1 |
| 本を読む | 47.5 | 44.6 | 50.2 | 46.0 | 49.3 | 47.9 | 54.6 | 48.8 | 42.6 |
| 学校の宿題を計画的にする | 33.0 | 31.3 | 34.6 | 34.7 | 35.4 | 26.2 | 50.5 | 34.5 | 24.5 |
| 規則正しい生活をする | 22.9 | 24.6 | 21.3 | 22.5 | 27.6 | 15.0 | 30.4 | 24.6 | 16.9 |
| 苦手な科目の勉強をする | 14.9 | 18.1 | 12.0 | 14.1 | 17.3 | 12.4 | 24.8 | 15.0 | 10.4 |

る」(14.9%)、「規則正しい生活をする」(22.9%)、「学校の宿題を計画的にする」(33.0%)で、特に「苦手な科目の勉強をする」は、15%にも満たない。総じて勉強に関することへの満足度は低い。

性別でみると、「好きな趣味にうちこむ」、「たくさん寝る」、「友だちと遊ぶ」、「スポーツをする」、「のんびり・ボケッとする」は、男子のほうが高く、「旅行をする」、「家の手伝いをする」、「本を読む」は、女子のほうが高い。男子のほうが遊びに関するものの満足度が高い。

成績別にみると、総じて上位者のほうが、満足している傾向にある。特に、「学習塾の夏期講習などに通う」、「本を読む」、「学校の宿題を計画的にする」、「規則正しい生活をする」、「苦手な科目の勉強をする」は、上・中・下位者の差が顕著である。第Ⅰ章「夏休みの学習」((1)夏休みの学習　4学習の内容)で述べたように、上位者と、中・下位者との学習成果の差は、学習関係の満足度の大きさからみても、この夏休みの過ごし方が、ポイントだといえる。

## (3) 夏休みのタイプ

夏休みを振り返ってみて、自分の夏休みがどんなものだったか、もっとも近いと思われるタイプを図Ⅳ-12にあげた8類型から1つ選んでもらった。

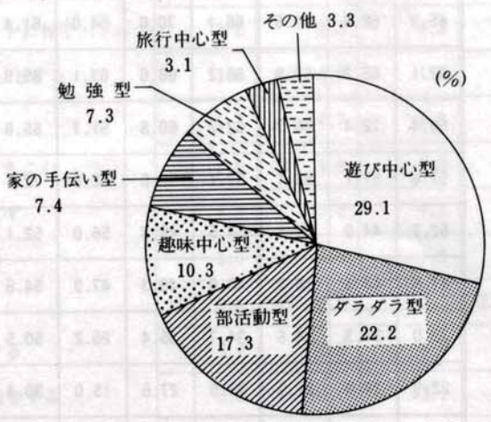
ベスト3は、「遊び中心型」29.1%、「ダラダラ型」22.2%、「部活動型」17.3%である。これに「趣味中心型」が10.3%と続いている。残りのタイプ(ex.家の手伝い型、勉強型、旅行中心型)は、1割に満たない。

性差がはっきりと認められたのは、女子に多い「家の手伝い型」(女子－10.7%、男子－4.3%)と男子に多い「遊び中心型」(男子－33.7%、女子－24.2%)である。

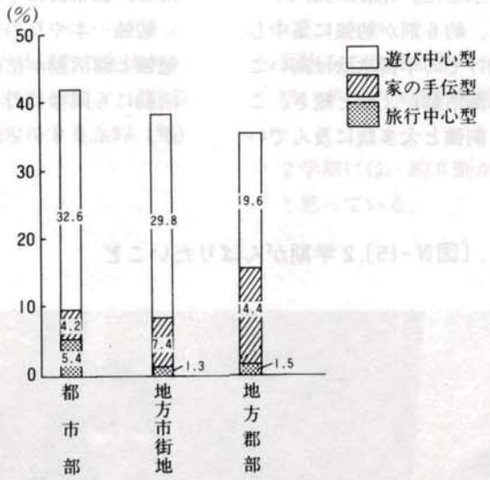
地域別に差の著しいものについて比較してみた(図Ⅳ-13)。「遊び中心型」は、都市部と地方市街地で多く、地方郡部は少ない。一方、「家の手伝い型」は、地方郡部に多く、都市部、地方市街地で少ない。「旅行中心型」は、全体では3.1%と少数派なものの、都市部では5.4%を占め、地方の4倍近い数値となっている。

同様に成績別に比較してみると、「遊び中心型」と「ダラダラ型」が成績下位層に多いのが目立つ。やはり、成績上位層で「勉強中心型」が多く、中位層を2倍以上上回っており、下位層の4倍を超える数値となっている。成績中位層では、「部活動型」が多いのが特徴である(図Ⅳ-14)。

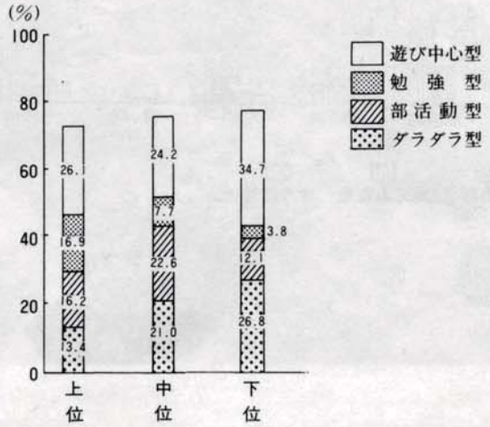
〔図Ⅳ-12〕夏休みのタイプ1




〔図Ⅳ-13〕夏休みのタイプ2 (地域別)




〔図Ⅳ-14〕夏休みのタイプ3 (成績別)



## (4) 2学期には何をがんばるか

前述のとおり、夏休みの過ごし方は、さまざまであった。各々、楽しい思い出や反省などを胸に抱いて、これから始まる新学期に向けて、どのような意欲をもっているのであろうか。

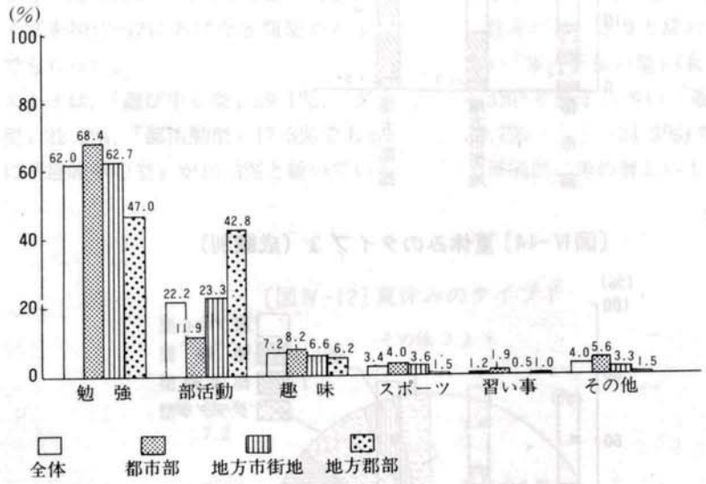
ここでは、2学期に何をがんばりたいかを具体的な6つの項目の中から選んでもらい、地域の比較も含めて示した。(図IV-15)

全体としてみると、約6割が勉強に集中しており、新学期に向けての学習意欲は高いことがわかる。これに部活動が2割と続き、この2項目で全体の8割強と大多数に及んでいる。

地域別にみてみると、勉強をあげた生徒は都市部、地方市街地、地方郡部の順で多く、都市部と地方郡部では、2割以上の差がある。これとは逆に、部活動をあげた生徒は、地方郡部、地方市街地、都市部の順で多く、特に地方郡部は、42.8%と突出している。これに対し、都市部は1割程度である。

勉強一本やりの都市部に比べ、地方郡部は、勉強と部活動が拮抗している。勉強の他に部活動にも同様に力を注ごうとする地方のほうが、バイタリティがあるように思われる。

〔図IV-15〕2学期がんばりたいこと






## (5) まとめ

・この夏休みを振り返り、「楽しかった」は全体の8割。「忙しかった」は5割、「充実していた」は半数以下で、「計画どおりだった」は4分の1にも満たない。

・この夏休みで一番楽しかったことは、「旅行に行った時」(28.3%)で、二番目は「親戚の家に遊びに行った時」(12.6%)である。

・夏休みの計画として、7割以上の生徒が、夏休みの始まる前、「友だちと遊ぶ」(73.6%)、「学校の宿題を計画的にする」(72.1%)をあげている。

・特に力を入れようと思ったものでは、「部活動にせいを出す」(20.3%)、「苦手な科目の勉強をする」(12.9%)の数値が高い。

・満足するまでできた計画のベスト3は、「旅行をする」(78.5%)、「部活動にせいを出す」(76.3%)、「好きな趣味にうちこむ」(70.1%)である。

・夏休みの過ごし方のベスト3は、遊び中心型、ダラダラ型、部活動型である。

・2学期には、約6割が勉強をがんばりたいと思っている。